



ペンネーム	あからのトマト君
-------	----------

**【エピソードのタイトル】**  
人生の金メダル

**【エピソードの内容】**

マラソコースの人工島手前に、母の入所しているグループホームがあります。母が入所して4年目。入所した年に、マラソコース側ということもあり、マラソンを走ることを決意。

2013年は、施設を見下ろす場所に来た。ひっとしたら母が外に出てくるかもしれないと期待しながら立ち止まって施設を見た。数分間待ったが出てくる様子はない。人工島に足向け、折り返しの時にも、施設を見るが人影はない。翌日、完走メダルを持って母の施設へ。メダルを母の首にかけた。頑張ったよ。お母さんも頑張ってるね。

2014年。施設を見下ろすと、施設から母が職員に手を引かれ出てきた。大きく手を振る。施設の所長さんが、スマホで位置情報をチェックし配慮してくれたのだ。有難い。翌日、完走メダルを母の首にかけた。

2015年。この年も職員に手を引かれ応援に出てきた。翌日、完走メダルは母の首に。

母は、父が亡くなった年に今の施設に2度目の入所をした。認知症を発症し、今の施設に一旦入所させるが、父は納得できず毎週のように母を連れて帰ろうとした。施設から連絡を受けた私は父を連れ戻しに行った。母を巡って親子間で争い、陰湿な状況が続いた。

施設の所長さんと相談し、退所したということにして、父をだまして入所させてもらった。所長さんにも多大な迷惑をかけた。

父は母を探して歩いた。当時、私が住んでいた山口市にも数回足を運んで探し回った。父は母を隠した私を憎んだ。実家に帰ると、父は差し入れの品を投げつけてきた。父は母を愛していたのかも。

親族で相談し、母を家に帰した。2か月後、父は亡くなった。父は幸せだったか、母は幸せだったかと思う今日である。

入所当初、家に帰らねばいけない、今は亡き、父はどこにいるか？祖母はどこにいるか？と心配していた母は、今は何も言わない。幼い時に養女に貰われ、頑固な父と結ばれ、農作業に明け暮れた母は幸せな人生だったのだろうか。

あなたのおかげで今の私があります。ありがとうございます。あなたの首に人生の金メダルを首にかけてあげたい。ありがとうございます。いつまでも長生きしてください。